



2021年7月2日発行

座光寺石原遺跡 発掘だより

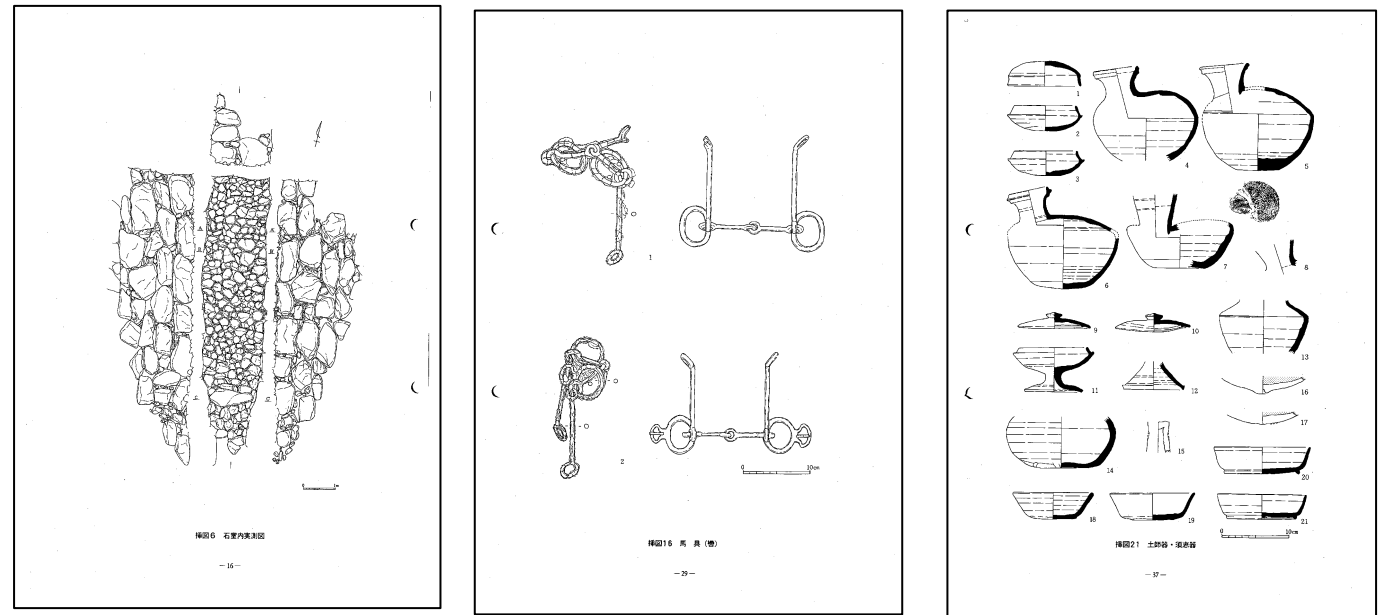
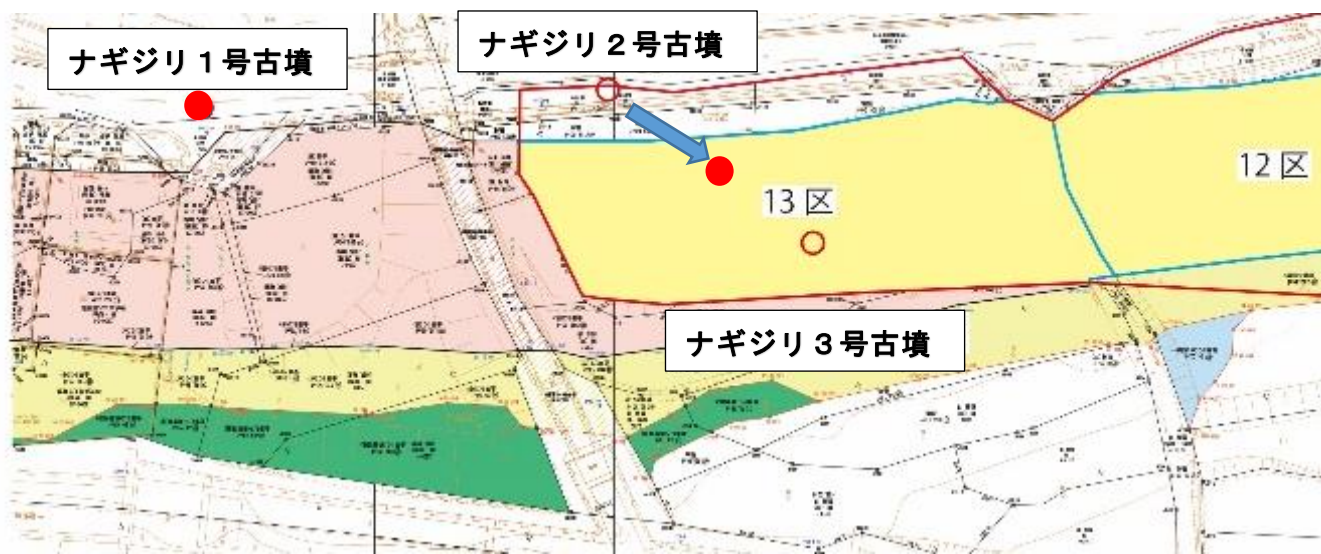
第5号

■ ナギジリ2号古墳発見！¹

調査範囲の一番西側にあたる13区は、北側から南側の土管川に向かって、果樹園が4段に造成されていました。その最上段の表土を掘削したところ、地表面直下から、巨大な石が現われました。周りに厚く積もった表土を手作業で取り除いていくと、巨石を下から支える石が、約1.7mの間隔で東西に2列ありました。巨石は動かされた形跡があるものの、古墳の天井石であると判明しました。



1960年に発行された『下伊那史』は、「第一号墳の南側66mを隔てた道下の水田の隅に存在した円墳」で、多量の須恵器破片が掘り出されたと記しています。飯田市教育委員会の遺跡地図の地点からややズレますが、『下伊那史』に記載の場所でナギジリ2号古墳を確認することができました。



左からナギジリ1号古墳の石室、轡(くつわ)、須恵器と土師器

■ ナギジリ1号古墳

1997年に飯田市教育委員会が発掘したナギジリ1号古墳は、石室中央部の奥行6.5m、最大幅2.0m、床から天井までの高さ2.25mの、南側に開口する横穴式石室をもつ古墳です。墳丘の全容は不明ですが、直径15m前後と推定され、正円形ではなかった可能性が指摘されています。また、墳丘の表面には部分的に葺石(ふきいし)が存在し、北端に周溝が設けられていたのではないかとされています。

大小の石が敷かれた石室底面を中心に乳文鏡、金環・銀環、勾玉・切子玉・小玉、馬具、鉄鏃、刀子が、石室入口の石の間からは平瓶、短頸壺、蓋環、高坏など、多種多量の遺物が出土しています。これらの遺物から判断して、同古墳は、6世紀後半に築造され、三時期にわたる追葬がおこなわれたとのこと。

■ 今後の調査について

ナギジリ2号古墳は、墳丘裾部の確認と並行して、天井石を記録後に撤去して石室の掘下げに入っていきます。また、ナギジリ3号古墳や9区の石原古墳の確認も行います。飯田市教育委員会は、「本墳(ナギジリ1号古墳)の性格等を具体的にするには、本墳の単独調査結果のみでは、とうていなしえないもの」と記しています。

土管川流域古墳群の性格等を解明すべく、調査をしていきます。

熱中症予防のため、ノドが渇いていなくても30分に一度は飲みましょうね！



座光寺石原遺跡発掘だより 第5号
長野県埋蔵文化財センター 飯田支所
飯田支所：0265-49-0736
maibun-iida@naganobunka.or.jp
発掘現場：090-2337-3138
HP：<http://naganomaibun.or.jp/>
(担当：若林卓・伊藤愛・平林彰)

¹ 発掘だより3・4号でナジギリ古墳と記載しましたが、正しくはナギジリ古墳でした。訂正してお詫びします。